

## 1 専門部会の主な検討項目

- (1) 秋田ならではの資源を生かした体験型コンテンツづくりと、県内周遊ルートの充実について
  - ① 豊かな地域資源を生かした誘客の推進
  - ② 秋田犬の観光コンテンツとしての更なる活用
  - ③ 複数のコンテンツを組み合わせた、多様な周遊ルートの形成
- (2) 外国人旅行者の受入に対応した態勢の整備促進と、マーケティングや情報発信の充実によるインバウンド誘客の推進について
  - ① インバウンド誘客を支える人材や事業者の育成
  - ② インバウンドに対応した受入態勢の整備促進
  - ③ ターゲットの動向に的確に対応するマーケティングの推進
  - ④ 口コミの力を意識した、本県の魅力の海外への発信
  - ⑤ 外航クルーズ船等の誘致と受入環境の整備
- (3) 秋田の食の商品力向上による国内外への販路拡大と、食の魅力による本県への誘客の促進について
  - ① 秋田を代表する食品ブランドの確立と強化
  - ② 幅広いネットワーク企業と連携した売り込みの強化
  - ③ 県産食品の輸出とインバウンド誘客の連携強化
  - ④ 本県が誇る発酵食品のブランド化と「発酵ツーリズム」の展開
- (4) 文化による地域の元気創出と、次代を担う人材の育成について
  - ① 東京オリンピック・パラリンピック等を契機とした文化プログラムの推進
  - ② 次代を担う若手人材の育成と、多彩な文化活動の促進
  - ③ 県・市連携文化施設の整備
- (5) 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる地域活性化について
  - ① 競技力の向上と次世代アスリートの発掘・育成・強化
  - ② スポーツ参画人口の拡大とスポーツを通じた健康増進
  - ③ 総合型地域スポーツクラブの充実と地域スポーツ指導者への支援
  - ④ 東京オリンピック・パラリンピック等を契機とした合宿誘致と継続的なスポーツ交流の実施
- (6) 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備について
  - ① 高速道路の整備促進
  - ② 暫定2車線区間の4車線化の整備促進
  - ③ 地方創生の拠点としての「道の駅」の魅力向上
- (7) 県内空港と国内外を結ぶ航空ネットワークの拡充について
  - ① 国内航空ネットワークの機能強化
  - ② 海外との航空ネットワークの拡充

## 2 提言事項

### 【総括的意見】

- (1) 秋田ならではの魅力が際立つ「選ばれる」観光地づくりを進め、国内外へ発信することにより、インバウンドを含めた誘客の拡大を図る必要がある。
- (2) 幅広い事業者との連携による秋田の食のブランディングと販路拡大を進めるとともに、発酵食など本県が誇る食文化を磨き上げ、誘客コンテンツとして活用すべきである。
- (3) 2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機とした、本県文化の国内外への発信や海外とのスポーツ交流の促進に取り組み、交流人口の拡大につなげていくことが重要である。
- (4) 道路や航空路線など、活発な交流を支える交通ネットワークの拡充について、将来を見据えた取組を展開する必要がある。

### 提言1：秋田ならではの資源を生かした体験型コンテンツづくりと、 県内周遊ルートの充実について

本県には、世界的に人気の高い秋田犬をはじめ、伝統行事や祭り、四季折々の景色、上質な雪質を誇るスキー場、日本酒等の発酵食文化など、海外にも通用する個性的でポテンシャルの高いコンテンツが豊富に存在している。

これらコンテンツを磨き上げるとともに、県内各地の幅広い事業者やサポート組織がそれぞれの強みを発揮しながら連携を高め、「オール秋田」の体制の下で周遊ルートの充実を図っていく必要がある。

### 【主な取組（意見）等】

#### (1) 豊かな地域資源を生かした誘客の推進

- ・本県が誇る豊かな地域資源を生かした体験プログラムの造成などを進め、誘客コンテンツを充実していく必要がある。

#### 【取組の例】

- ユネスコ無形文化遺産の「山・鉾・屋台行事」や、全国トップの登録数を誇る国指定重要無形民俗文化財など、祭り・行事を活用した誘客
- 冬の暮らしやマタギ文化などの秋田ならではの生活文化、さくらんぼ狩りやきりたんぼ作りなどの農山漁村体験、トレッキングなどの各種アクティビティなどの体験型コンテンツとしての積極的な活用
- 日本酒や発酵食文化など本県が誇る「食」や、「あきた美人」を育んできた歴史・文化の誘客コンテンツとしての活用

## (2) 秋田犬の観光コンテンツとしての更なる活用

- ・秋田犬は、高い訴求力を有する本県オリジナルの地域資源であるが、観光コンテンツとしての更なる活用を図るためには、実際に触れ合える場の拡大が求められている。

## (3) 複数のコンテンツを組み合わせた、多様な周遊ルートの形成

- ・これらコンテンツを組み合わせ、県内周遊ルートのモデルコースとしてPRしながら、ルートの多様化を図る等により、周遊型観光の確立を図る必要がある。
- ・また、本県をはじめ東北各県が誇る、魅力的な自然や温泉、スキー・スノーボード等の冬のアクティビティ、上質な日本酒や個性ある食文化などを組み合わせ、東北6県が連携を強化して国内外に売り込むことにより、広域周遊ルートの形成を図ることも重要である。
- ・仙台空港をゲートウェイとした県内への周遊ルートの構築は、本県へのインバウンド誘客において有効である。

### 提言2：外国人旅行者の受入に対応した態勢の整備促進と、マーケティングや情報発信の充実によるインバウンド誘客の推進について

インバウンド誘客を担う人材や事業者の育成を含めた、外国人旅行者の受入態勢の整備を図る必要がある。

また、潜在層も視野に入れたマーケティングを推進し、国・地域ごとの特性やターゲットの動向等に的確に対応した商品づくり等を促しながら、SNS等を活用しタイムリーな情報発信を行うことが重要である。

#### 【主な取組（意見）等】

##### (1) インバウンド誘客を支える人材や事業者の育成

- ・インバウンド誘客を進めるための、営業、おもてなし、情報発信などのスキルを持った人材の育成や、体験型観光の関連事業者・観光ボランティアガイド等の育成とスキルアップを図る必要がある。
- ・事業者向けの研修等を行う際には、ターゲットによる消費性向の違いを明確にするなど、きめ細やかな情報提供に努めることが肝要である。
- ・インバウンドに対応したランドオペレーター等について、県内において事業者を育成する必要がある。

##### (2) インバウンドに対応した受入態勢の整備促進

- ・外国人旅行者に対応した多言語表記の充実や二次アクセスの整備を引き続き促進するとともに、観光施設や宿泊施設におけるWi-Fi環境の整備や外貨決済システムの導入、

促進に取り組む必要がある。

- ・特に、交通ターミナルや主要な観光地点への両替窓口の設置を促進することが重要である。
- ・観光・交通情報を提供する多言語対応アプリ「アキタノNAVI」や、秋田県観光連盟に設置した「あきた旅のサポートセンター」の利活用を図る必要がある。
- ・「国立公園満喫プロジェクト」の実施と連携し、十和田・八幡平国立公園、国定公園及び県立自然公園における受入態勢の強化を図る必要がある。
- ・これらインバウンドに対応する受入態勢を整備するにあたっては、利用する外国人旅行者の目線をしっかりと意識し、取組に反映させることが肝要である。

### (3) ターゲットの動向に的確に対応するマーケティングの推進

- ・東京、京都、北海道などを訪れている外国人旅行者をターゲットとしたマーケティングを実施するとともに、我が国を訪れていない外国人の潜在的なニーズや動向を把握するための、SNS等のデータ活用によるデジタルマーケティングを実施する必要がある。

### (4) 口コミの力を意識した、本県の魅力の海外への発信

- ・国内外の旅行形態が団体型から個人型に大きく変化していることを踏まえ、県が運営する多言語によるソーシャルメディアを充実させるほか、様々なチャネルを活用した情報発信を行う必要がある。
- ・インバウンド向けの情報発信においては、海外のパワーブロガーの招へい、現地著名人の活用、留学生など県内在住外国人の活用など、口コミによる情報拡散を意識した取組が重要である。

### (5) 外航クルーズ船等の誘致と受入環境の整備

- ・増加するクルーズ需要を確実に本県に取り込むためには、官民一体となった受入態勢の整備が必要である。
- ・特に、主要観光地への二次アクセス強化において、JRの貨物線を活用したクルーズ客列車による輸送の取組は非常に有効であることから、本格運用を目指し、引き続き検討を進めることが重要である。

<h3>提言3：秋田の食の商品力向上による国内外への販路拡大と、食の魅力による本県への誘客の促進について</h3>
-----------------------------------------------------------

<p>県産食品のブランディングを戦略的に展開し、国内外で県産食品のプレゼンスを高めるとともに、本県の「食」の強みと市場ニーズのマッチングによる「売れる商品開発」を推進することが求められている。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------

また、様々な企業との連携やアンテナショップの機能強化を通じた、効果的なマーケティング活動やプロモーションを行い、販路の拡大を図るとともに、対象市場や品目を戦略的に選定しながら県産食品の輸出を促進する必要がある。

さらに、県産食品の輸出とインバウンド誘客の連携強化を図ることにより、海外における「秋田の食」のブランド化と、食の魅力による海外からの誘客拡大の相乗効果が見込まれる取組を展開することが重要である。

## 【主な取組（意見）等】

### （１）秋田を代表する食品ブランドの確立と強化

- ・日本酒や発酵食品等に代表される県産食品について、更なる高品質化によるブランドの確立や強化を図り、国内外で本県の「食」を選択するファンを増やすことにより、競争が激化する食品業界において販売量やシェアの拡大を図る必要がある。
- ・特に、高品質な日本酒の製造や「いぶりがっこ」の品質管理などへの支援や、地理的表示保護制度（G I）等の活用による「しょつつる」等のブランド確立に向けた支援は有効である。
- ・また、本県が誇る発酵食文化は、秋田の食をリードしていくポテンシャルを秘めるとともに誘客コンテンツとして活用することも可能であるが、他県の発酵食文化との比較や差別化を意識しながら商品化やプロモーションを行うなどの工夫が必要である。

### （２）幅広いネットワーク企業と連携した売り込みの強化

- ・国内外の企業との新たな連携による販路の開拓を図るとともに、県産食品を効果的に大消費地に流通させるため、首都圏に次ぐマーケットとして、関西や九州への販路拡大を目指す必要がある。
- ・また、県内食品事業者による本県独自の土産品等の開発や磨き上げ、販売店との商談等への支援を行うことにより、県内事業者による観光消費の獲得を後押しすることが必要である。

### （３）県産食品の輸出とインバウンド誘客の連携強化

- ・県産食品の輸出プロモーションとインバウンド誘客を効果的に連携させることにより相乗効果を発揮させ、海外における「秋田の食」のブランド化を図るとともに、食の魅力による海外からの誘客を拡大する取組が必要である。
- ・そのために、本県独自の食文化を誘客コンテンツとして磨き上げ、効果的に活用し、「食」と「観光」の一体的なプロモーションを展開することが重要である。

### （４）本県が誇る発酵食品による「発酵ツーリズム」の展開

- ・魅せる酒蔵などを秋田ならではの誘客ツールとする「発酵ツーリズム」を構築し、県産発酵食品のファン拡大や、国内外からの誘客を展開するべきである。
- ・具体的には、酒蔵や麹蔵などを改装し体験型のツアーなどを受け入れる「発酵体験施

設」の整備促進や、発酵マイスターがアテンドして詳しい説明を行うツアーの造成、漬物・甘酒・寒麴等に付け込んだ地元の豚肉や鶏肉の試食、「いぶりがっこ」のいぶしを体験できる観光兼用のいぶし小屋の設置等の取組が求められる。

#### 提言4：文化による地域の元気創出と、次代を担う人材の育成について

東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、様々なオリンピック関連イベントを活用するとともに、特色ある文化事業を企画し、本県の文化を効果的に国内外に発信することで、地域の文化を観光資源としても活用し、交流人口の拡大につなげていく必要がある。

また、芸術文化団体の活動促進に向けて、若者をはじめとした多くの県民が参加・活動しやすい環境の整備が求められている。

#### 【主な取組（意見）等】

##### （1）東京オリンピック・パラリンピックを契機とした文化プログラムの推進

- ・東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムへの県内の文化事業の参画を促すため、日本文化の魅力をオールジャパンで発信する「beyond2020プログラム」を最大限に活用し、本県の文化を国内外に発信するとともに、東京オリンピック・パラリンピック終了後の継続的な交流人口の拡大につなげていく必要がある。
- ・そのためには、大規模文化イベント等を行う文化プログラムを支援しながら、新たな文化の創造への取組を促すとともに、文化プログラムを先導する「東京キャラバン」の本県開催にあたっては、秋田ならではの文化資源を活用し、秋田の芸術文化を国内外に発信することが重要である。

##### （2）次代を担う若手人材の育成と、多彩な文化活動の促進

- ・次代の文化を担う若手人材を育成するため、若者の発表機会の充実や文化活動への助成などを行う必要がある。
- ・市町村や民間団体等と連携し、多くの文化事業を集中的に実施する「あきた県民文化芸術祭」を引き続き開催する等により、多様な文化活動を促進する必要がある。
- ・民間団体等が行う音楽、演劇、舞踊等の講演や鑑賞会などの芸術文化活動を支援し、県民の文化活動をサポートする統括的な文化団体の機能を強化するとともに、メディアアートなど、新たな芸術文化活動を促進していくことが重要である。

##### （3）県・市連携文化施設の整備

- ・文化を創造していく中核拠点として県全体の文化振興を担う、県・市連携文化施設について、平成33年度中の開館に向け、着実に整備を推進する必要がある。
- ・整備にあたっては、ワークショップや芸術文化団体等の意見を踏まえるとともに、運営管理計画については、事業者の創意と工夫を生かした施設運営となるよう配慮しな

がら、様々な利活用に対応するため、できるだけ早期に策定し公表することが重要である。

- ・また、県民会館閉館中における文化団体の活動を支援する必要があるほか、県内各地域の文化施設の活用を促すことにより、県全域での芸術文化の振興が図られることが期待される。

### 提言5：「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる地域活性化について

県民に夢と希望を与えるトップアスリートの発掘・育成や、ジュニア世代からの一貫指導体制の強化による競技力向上を図るとともに、多様なライフステージに応じたスポーツ環境の整備や、地域における指導者等の発掘・育成が重要となっている。

また、スポーツ合宿の誘致や海外とのスポーツ交流を進めるため、東京オリンピック・パラリンピックの開催といった好機を生かす取組が重要であるとともに、東京オリンピック・パラリンピック後も交流を継続・拡大し、本県スポーツの充実を図る必要がある。

#### 【主な取組（意見）等】

##### （1）競技力の向上と次世代アスリートの発掘・育成・強化

- ・国際競技大会等で優れた成績を挙げられる選手を発掘・育成するため、特にジュニア層の強化を柱に据え、各競技団体や関係機関、地域等との連携を図りながら、一貫指導体制を確立する必要がある。
- ・ジュニア層の強化にあたっては、将来有望なアスリートを発見し、育成するためのタレント発掘事業や、選手の潜在能力を開発するための測定会を実施する等により、個人の競技種目の選択に幅を持たせつつ、総合的かつ戦略的な強化を図ることが重要である。
- ・また、少子化により活動が難しくなっているスポーツ少年団や学校の部活動に対する支援も検討する必要がある。

##### （2）スポーツ参画人口の拡大とスポーツを通じた健康増進

- ・県民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤となるよう、誰もが日常的にスポーツに親しむ機会を充実させ、スポーツ参画人口の拡大を図るとともに、「健康寿命日本一」を目指し、健康増進を図るためのスポーツの普及に取り組むことが必要である。
- ・特に、「ねんりんピック秋田2017」の成果を生かし、東京オリンピック・パラリンピックを契機としながら、幅広い世代のスポーツ参画を促していくことが重要である。

### (3) 総合型地域スポーツクラブの充実と地域スポーツ指導者への支援

- ・地域のスポーツ活動の受け皿となる総合型地域スポーツクラブについて、クラブ間のネットワークづくりや自立的な運営に向けた支援を行う中間支援組織の整備等により、質的充実を図る必要がある。
- ・総合型地域スポーツクラブの指導者やスポーツ推進委員など、地域におけるスポーツ指導者の研修機会を充実させ、資格認定制度を整備することにより、更なる資質の向上を図ることが重要である。

### (4) 東京オリンピック・パラリンピック等を契機とした合宿誘致と継続的なスポーツ交流の実施

- ・東京オリンピック・パラリンピック等に向け、ホストタウンを基盤とした海外からの事前合宿誘致を進めるとともに、東京オリンピック・パラリンピックを契機として構築される海外とのスポーツ交流の基盤を生かし、交流の継続と発展を図る必要がある。

## 提言6：県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備について

広大な県土を有し積雪寒冷地である本県が、人口減少下においても活力を維持していくためには、日々の暮らしや経済活動、地域間の交流を支える道路ネットワークの整備が不可欠である。

このため、高速道路やそれを補完する地域高規格道路をはじめ、交流・物流拠点へのアクセス道路や、暮らしを支える生活道路の整備を推進するとともに、地方創生の拠点としての「道の駅」の魅力向上を図ることが重要である。

### 【主な取組（意見）等】

#### (1) 高速道路の整備促進

- ・物流の効率化や交流人口の増加を図るため、日沿道や東北中央道の早期の全線開通へ向け、整備を促進する必要がある。
- ・災害発生時において、並行する一般国道等のリダンダンシー（代替性）確保の面からも、早期の整備が重要である。
- ・高速道路の整備効果は、企業誘致や観光振興など多方面にわたることから、将来的な利活用へ向けた方策の検討を横断的・複合的に行う必要がある。

#### (2) 暫定2車線区間の4車線化の整備促進

- ・交通事故の防止や円滑な冬期交通の確保を図る上で、高速道路の暫定2車線区間の4車線化を図ることが重要である。

- ・ 4車線化の実現には長期間を要するため、区間毎の緊急性を考慮した上で整備を行うこととなるが、優先順位の低い区間については、中央分離帯へのワイヤーロープ設置による対向車線へのはみ出し防止対策を行うなど、利用者の安全確保を図ることが必要である。

### (3) 地方創生の拠点としての「道の駅」の魅力向上

- ・ 「道の駅」の整備においては、観光施設としてだけでなく、多面的な機能を持たせた地域の拠点となるよう、それぞれの地域に合わせた様々な角度からの検討が必要である。

## 提言7：県内空港と国内外を結ぶ航空ネットワークの拡充について

国内航空ネットワークについて、地元市町村や関係機関と協力しながら利用促進に取り組み、路線の維持・拡充を図るとともに、LCCも含めた新規航空路線の誘致に取り組むことが必要である。

また、国際航空ネットワークについては、秋田・ソウル国際定期便の運行再開に粘り強く取り組むとともに、台湾と本県をダイレクトに結ぶ国際チャーター便の充実を図る必要があるほか、県民の海外渡航機会拡大に向けた取組を強化することが重要である。

### 【主な取組（意見）等】

#### (1) 国内航空ネットワークの機能強化

- ・ 就航先である札幌、名古屋及び大阪、並びに乗り継ぎ利用が見込まれる中四国地域等での航空利用プロモーションや、県内空港を利用し県内主要観光地を巡る旅行商品の造成支援、四国や北陸地方など他県空港と連携した乗り継ぎ相互送客の促進等により、国内航空路線の利用促進を図る必要がある。
- ・ 航空ダイヤの改善や、便数の増加、使用機材の大型化など、航空路線の利便性向上に向けた働きかけを行う必要がある。
- ・ LCCも含め、新たな需要が見込まれる新規航空路線の誘致と、新規就航を誘発する支援策について検討すべきである。

#### (2) 海外との航空ネットワークの拡充

- ・ 秋田・ソウル国際定期便は、韓国からの誘客拡大や乗り継ぎ利用による海外渡航の利便性向上等に大きく貢献することが見込まれることから、引き続き運航再開に向けた取組を推進する必要がある。
- ・ 重点的なエアポートセールスの展開等により、県内空港と台湾、韓国、タイ、中国等を結ぶ国際チャーター便の運航増加を促すことにより、本県へのインバウンド誘客の

拡大を図ることが重要である。

- ・ これら、海外との航空ネットワークの拡充を進めるうえで、本県からのアウトバウンドを増加させる視点が欠かせないことから、幅広い分野における相互交流の促進など、県民の海外渡航機会の拡大に取り組む必要がある。